

ごあいさつ

第 100 回定期演奏会後の懇親会にて

団長

山本賢二 Ob



懇親会冒頭での山本賢二団長

ご来賓の皆さま、大勢お出でいただきました懐かしい鎌響OBの皆さま、本日の演奏会をご支援いただきました横島先生はじめソリスト、トレーナー、賛助出演の皆さま、そして復活の演奏を最後に素晴らしく締めくくっていただいたコーラスの皆さま、本日は誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

私ども鎌倉交響楽団の者にとって、本日は二つの意味で大変感動的な一日でございました。

一つは創立50周年、第100回定期演奏会を迎えることができたということでもあります。プログラムや展示でご覧いただいたと思いますので歴史のことを詳しくは申しませんが、ここに至るまでには多くの運営上・演奏上の困難があり、今でも毎週の練習場の確保に悩まされておりますが、一つひとつのハー

ドルをその時どきの団員の努力と関係各位のご支援で何とか乗り越えて50年を経過し今日の記念演奏会に至りました。厚く御礼申し上げます。

もう一つは、「レオノーレ」と「復活」というアマチュアオーケストラにとっていつかはやってみたいプログラムに挑戦したことであります。

ご覧いただいたとおり、大編成のオーケストラに加えて百名のコーラスとソリスト、8台のティンパニ、2台のハープ、大音量のクラシックオルガン、舞台の両袖からのバンダ演奏など、初めての経験となることも多く、横島先生のご指導の下、試行錯誤を繰り返しながら90分の大曲に取り組みました。

演奏の出来栄は、皆さまの評価にお任せいたしますが、私どもとしては念願を果たした達成感に浸っております。

本日の節目を終えて今後の鎌響でございますが、さらに大きな目標を掲げて高い山の頂きを目指すという意見もありますが、私は当面一杯に広げた両手を休ませ、いわば内に力を蓄えることに注力いたしたいと考えております。すなわち、団員一人ひとりが音楽の技術を磨き、充実した練習を重ねて、ありがたいことにこのところ毎回鎌倉芸術館を埋めていただける聴衆の皆さまに、鎌響のコンサートにはいつ来てもいい演奏が聴ける、美しいハーモニーと温かい音楽を味わえると実感していただけるような、地道な音楽活動を続けていきたいと考えております。

今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



鎌倉市長代理の青山陽子文化人権推進課長が次の市長挨拶を代読されました

鎌倉交響楽団団長

山本 賢二 様

鎌倉交響楽団が本年創立50周年を迎え、記念すべき第100回目の演奏会を開催されますことに心からお祝い申し上げますとともに、山本団長様をはじめ団員、関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

元来、湘南地域には数多くの音楽家が居住され、古くから音楽活動が盛んな土壌であります。とりわけ鎌倉は、錚々たる音楽家の先生方、音楽愛好家が多い環境にあります。今では、全国各地でアマチュアオーケストラが誕生していますが、1963年に音楽評論家の野村光一先生を発起人として創立された貴交響楽団は、その草分け的存在であると認識しています。

本市では、市民が優れた芸術文化に触れられることのできる環境づくりや次代を担う子どもたちが多彩な文化芸術に親しむ機会の拡充にも取り組んでいるところです。このような中、市内の幼稚園児を対象とするコンサートの開催など、地域に密着した活動を展開されている皆様方の活動は、大変意義のあるものと考えております。

結びに、これまで以上に地域に根ざした活動を展開され、ご活躍されますことを祈念いたしますとともに、今後の更なるご発展をお祈り申し上げます。

平成24年10月27日

鎌倉市長

松尾 崇

創立50周年を迎えて

宇多綾子 Vn

(創立時からの団員)



宇多さん（左）と石橋さん Vn（役員ライブラリアン兼務）懇親会にて

1993年鎌倉に待望の芸術館が完成しました。文化都市と言われている鎌倉市としては何とも遅ればせの設立でした。現在では全く当り前のようにこの会館を使って毎回演奏会を開いています、ここに至るまでの道のりは長く多くの困難と努力を伴うものでした。

鎌響発足当初から使っていた旧公民館は、何の音響設備もない古い建物でしたからその都度音響板設置などの準備を含め、すべて手作りで汗まみれの演奏会を開いていました。それでも団員一同の音楽に対する情熱と鎌響への愛情を支えに頑張ってきました。今この50年を振り返り、既に他界された多くの功労者の方々、そして鎌響の組織作りに多大の尽力を惜しまなかった特に何人かの団員達のことを改めて感謝と共に思い起こしています。

第一回の演奏会の直前に入団した私は、4年程前に退団するまでの長い年月

を、正に鎌響の歴史と共に歩んできたように思います。かつて鎌倉市役所の真ん前に住んでいた関係もあって〈正確に言えば市役所が我が家の前に建てられたのですが〉「鎌倉交響楽団事務所」の看板を掲げていましたので、何かにつけ問い合わせの電話がしきりとかかってきました。特にベートーヴェン第九演奏会の前などは入場券の有無を確かめるものが多く、家にいた母はその取次ぎで電話の傍を離れられないような日々でした。それでも、御成小学校音楽室での練習の後など、よく団員たちが我が家へ集まり、健在だった私の両親ともどもに飲み食べ会をやっていたのは懐かしい思い出です。

初代指揮者の東清蔵先生、前田幸市郎先生、鎌響の恩人ともいえる福井孝一さん、長年団長を務められていたチェロの伊沢龍作さん、市役所勤務でいらした服部甚蔵さん、大船整骨院院長の佐藤元一さん、92歳で亡くなるまで団内室内楽演奏会でヴィオラを弾いていらしたいつも温厚な日比谷平一郎さんなど、今は天国で鎌響50周年を喜んで見守ってくださっていることでしょう。この方々のご冥福を祈りながら、現在活躍中の団員の皆様、そして鎌響を支えてくださっている多くの聴衆の皆様と共に、この日を祝し今後の鎌響のますますの発展を祈りたいと思います。



宇多さんのご両親 1965年1月由比が浜にて 鎌響15周年にはご招待しました。
(宇多さんのアルバムより)

中国のオーケストラ事情

上海在住 休団中 松井一正

上海在住の松井（Vn）と申します。1993年頃（記憶微妙）に鎌倉交響楽団に入団し、10年以上も鎌響に在籍していますが、実質的な活動をしたのは、数年間ですので、現在の鎌響の人達は、ほとんど「おまえ誰?」、「知らねえ」とかという事になるかと思えます（汗）。

有名な伝説(?)としては「オケよりも先に演奏を終了するセカンドバイオリンの1プルト」というのがあります。それは、ベートーベンの第9の練習でオケ全体の合奏をした時に、セカンドのトップの井上さんとトップサイドの自分が、「ジャ〜ン」と弾き終わると、なぜか全体はまだ終わっていなかったことがありました。これはオケが遅いのが原因で、1プルトのせいではないと主張しましたが、認められませんでした（笑）。皆さんも合奏の際にはオケの音をよく聞いて、オケが遅い場合は、仕方がありません、合わせるようにして下さいね。

さて、自分は、東京と上海でコンサルティング会社を経営していきまして、日系企業の中国進出戦略や現地での広告・販売戦略を作ったりしています。3年ほど前から上海をベースにしています。

仕事の目的（信条）は、日本人として、日本と日本人を元気にする事です。中国のエネルギーを日本再生に使えればと思って中国で画策しています。

そんなこんなで、休団してはや5年が経とうとしています。「だったら辞めろよ!」「往生際が悪いぞ」という声が聞こえてきますが（汗）、図々しくも休団を続けています。やはりいつまでもこのオケには、かかわっていたいと思うからです。鎌倉交響楽団は大好きなオケなのです。

今回は鎌響50周年という事で、菅井さんから何か投稿してほしいという事でしたので、将来、鎌響が中国デビュー公演できる事を夢見て、中国のクラシック事情を簡単ですが、ご紹介したいと思います。

中国ではクラシック音楽を鑑賞したり学んだりする人の数は急激に増加しています。具体的なクラシック人口の統計数字はないですが、参考として、中国音楽家協会が発表した2009年の統計で、ピアノを習っている人が3000万

人（日本は200万人）、これとは別にバイオリンを習う人が1000万人（日本10万人）、音楽スクールに入学する人は毎年20万人に達するという数字があります。

ピアノで見ると単純に日本の10倍、人口も10倍だから、比率としては同じという事になりますね。しかし西洋音楽文化後進国だと思っていた中国で、日本の同じ比率の人がクラシック音楽を嗜（たしな）んでいるのかと思うと隔世の感がありますね。時代は確実に変わっています。

自分は中国滞在中に時間があると、中国のオーケストラをよく聞きに行っていますが、自分が尊敬する「中国愛楽楽団（China Philharmonic Orchestra）」以外は、まだまだレベルは高くありません。ただ欧米の一流オケがたくさん来ますので、お客さんの耳は超えています。料金はローカルのオケのコンサートなら500円くらいから楽しめます。欧米のオケのコンサートは日本と同じくらいで3万円前後ですね。

そこで、今回は「中国オケ特集」として、中国にはどういったオケがあって、どういった特徴を持っているのか、いわゆる中国7大オケと言われるオーケストラを中心にご紹介したいと思います。

中国国家交響楽団 China National Symphony Orchestra

<http://www.cnso.com.cn/>

中国国家交響楽団(CNSO)は国の文化部直属の団体。前身は1956年に成立した中央楽団。1996年に国家交響楽団になり現在に至っている。国家行事を中心に演奏会を開いているが、公務員が団員であるためか、演奏レベルはそれほど高くありません。国家のオーケストラらしく、右写真にあるように、人民解放軍向けの慰安演奏会もするようですね。



上海交響楽団 Shanghai Symphony Orchestra

<http://www.sh-symphony.com/WebSite/Default.aspx>



アジアで最も古いオーケストラの一つで 1879 年に設立されたオケです（NHK 交響楽団は 1926 年）。

コンサート専用ホールの東方芸術中心や上海音楽庁などを中心に毎月精力的な演奏活動を続けており、2012-2013 シーズンには日本の指揮者大植英次さんなども登場するようです。

現在楽団が上海市内中心部に建設中の音楽ホール「上海交響楽団ホール（仮称）」は日本の磯崎新氏などによる設計。2013 年完成予定。楽しみです。

中国愛楽楽団 China Philharmonic Orchestra

<http://www.chinaphilharmonic.org/01/index.shtml>

中国中央テレビ台に所属するオーケストラで 2000 年成立。中国の威信をかけて世界中に留学していた一流の中国人学生や世界で活躍している一流演奏家をまとめて結成したオーケストラ。

頻繁に行われる欧米への海外ツアー等の単独演奏会のみならず、オペラやバレエのピットにも入り、数多くの舞台活動を支えています。

このオケは何回も聞きに行きましたが、毎回必ず鳥肌が立つ演奏レベルで、驚く。中国で聴くなら絶対にこのオケ。チケット料金は中国の他のオケと比べると高いですが、価値はあります！

このオケ、2009 年には英国《レコードプレーヤー》誌で、世界で最も影響力のある 10 大オーケストラの一つに、ベルリンフィル、ロンドンフィル、ニューヨークフィルらとともに選ばれています。これは中国のオーケストラとしては初の出来事で快挙と称賛されました。凄いですね。



北京交響楽団 Beijing Symphony Orchestra

<http://www.bjso.cn/>

1977年に成立したオーケストラで、北京市政府の支持のもと、北交の愛称のもと中国を代表するオーケストラとなっています。

西洋音楽のみならず国内の民族音楽のオーケストレーションにも積極的に取り組んでおり、数々の特色ある音楽を取り入れ演奏活動を行なっています。

団員の美人メンバーで結成したクアルテットは是非見て、いや聴いてみたい(笑)。



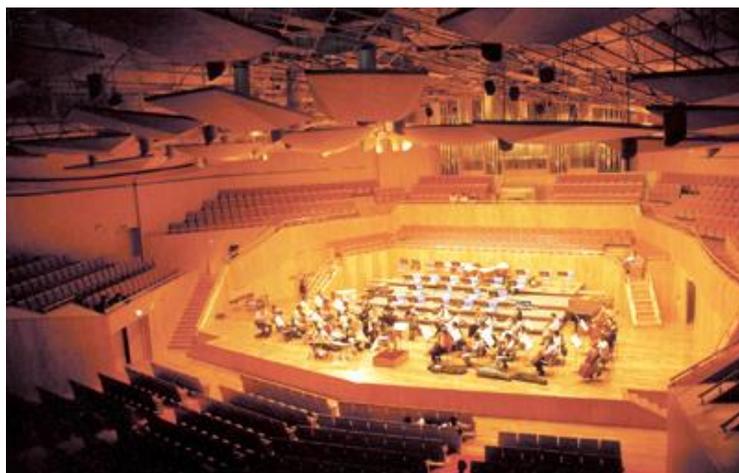
広州交響楽団 Guangzhou Symphony Orchestra

<http://www.gso.org.cn/>

1957年の成立で、新中国成立後最も早く成立したオーケストラの一つです。

広州市文化省に所属し、国内外の有名な音楽家を招き、さらに厳格な管理と厳しい訓練により高い演奏水準を誇り、1993年には中国初の指揮者コンクールの委託オーケストラとなりました。

写真は、本拠地としている広州のコンサート専用ホール「星海音楽庁」。



廈門愛樂樂團 Xiamen Philharmonic Orchestra

<http://www.xmxpo.cn/home.asp>

1998年の成立したオーケストラで、廈門市政府の支持のもとクラシック音楽の普及に力をいれて活動を行なっている。

指揮者による楽曲解説や、毎週月曜から金曜までの午前と午後の練習を公開し金曜の晩の演奏会本番に臨むというスタイルを貫き、聴衆とともに楽しむ音楽を実践している。



美男&美女プレイヤーが多いのも注目したい（笑）。

深圳交響楽団 Shenzhen Symphony Orchestra

<http://www.sso.org.cn/>



深セン政府の支持のもと 1982 年に成立したオーケストラ。

年間 100 回以上の演奏会をこなしながら、国内のオケの中でも空席率が低く充実した演奏活動・運営が行なわれている。香港に近い事から、欧米の指揮者の指導も多いと聞きます。

このほか天津や武漢等にもオーケストラがあり、2009 年には貴陽や杭州(浙江)にも、オーケストラが誕生している。以下、その他オーケストラ

| | | |
|---------|---------------------------------|---|
| 浙江交響楽団 | Zhejiang Symphony Orchestra | http://www.zjso.org/ |
| 広西交響楽団 | Guangxi Symphony Orchestra | URL:N/A |
| 江蘇交響楽団 | Jiangsu Symphony Orchestra | http://www.jsyanyi.cn/jxsy.aspx |
| 遼寧交響楽団 | Liaoning Symphony Orchestra | URL: N/A |
| 武漢交響楽団 | Wuhan Symphony Orchestra | URL: N/A |
| 四川交響楽団 | Sichuan Symphony Orchestra | http://www.cnsso.org/ |
| 天津交響楽団 | Tianjin Symphony Orchestra | URL: N/A |
| 上海愛楽楽団 | Shanghai Philharmonic Orchestra | http://www.shphilharmonic.com/ |
| 河北交響楽団 | Hebei Symphony Orchestra | http://www.hebeiso.com/ |
| 昆明交響楽団 | Kunming Symphony Orchestra | URL: N/A |
| 貴陽交響楽団 | Guiyang Symphony Orchestra | http://www.chinagyso.com/ |
| 歌劇院交響楽団 | China Opera Symphony Orchestra | http://www.chinaopera.com.cn/index.html |
| 電影交響楽団 | China Film Symphony Orchestra | http://www.cbpg.cn/1/ |

そして自分がメンバーのアマチュア交響楽団であり、2013年2月にNY&LA 公演を実施した、

上海城市交響樂團 **Shanghai City Symphony Orchestra** <http://scso.com.cn/>
メンバーと言っても、まだ練習には3回しか行っておらず、まもなくクビになる予定（笑）

中国でのアマチュアオケは、まだまだ歴史が浅く、日本のアマチュアオケができる事はたくさんあるように思います。近い将来に、日中友好を目的として、鎌倉交響樂團が上海に行き、この上海城市交響樂團と共同で、大きな音楽祭ができるといいなと思っております。その実現のために、みんなで頑張りませんか？ 次の50年に向けて、鎌響頑張り！！

（オマケ）中国語である作曲家はどのように書かれるのか？ クイズで使えます（笑）

- | | |
|-----------------------|-----------------------------------|
| ・ 约翰·帕赫贝尔 | Johann Pachelbel |
| ・ 安东尼奥·卢奇奥·维瓦尔第 | Antonio Lucio Vivaldi |
| ・ 约翰·塞巴斯蒂安·巴赫 | Johann Sebastian Bach |
| ・ 乔治·弗里德里希·亨德尔 | George Frederic Handel |
| ・ 弗朗茨·约瑟夫·海顿 | Franz Joseph Haydn |
| ・ 沃尔夫冈·阿玛多伊斯·莫扎特 | Wolfgang Amadeus Mozart |
| ・ 路德维希·凡·贝多芬 | Ludwig van Beethoven |
| ・ 约翰内斯·勃拉姆斯 | Johannes Brahms |
| ・ 尼科罗·帕格尼尼 | Niccolo Paganini |
| ・ 门德尔松·巴托尔迪 | Mendelssohn Bartholdy |
| ・ 弗朗茨·泽拉菲库斯·彼得·舒伯特 | Franz Seraphicus Peter Schubert |
| ・ 罗伯特·舒曼 | Robert Schumann |
| ・ 弗里德里克·弗朗索瓦·肖邦 | Fryderyk Franciszek Chopin |
| ・ 弗朗兹·李斯特 | Franz Liszt |
| ・ 夏尔·卡米尔·圣 - 桑 | Charles Camille Saint-Sa |
| ・ 彼得·伊里奇·柴可夫斯基 | Ru-Pyotr Ilyich Tchaikovsky |
| ・ 爱德华·格里格 | Edvard Grieg |
| ・ 里姆斯基-柯萨科夫 | Rimsky-Korsakov |
| ・ 阿希尔·克劳德·德彪西 | Achille Claude Debussy |
| ・ 亚历山大·尼古拉耶维奇·斯克里亚宾 | Alexander Nikolaievich Scriabin |
| ・ 谢尔盖·瓦西里耶维奇·拉赫玛尼诺夫 | Sergei Vassilievitch Rachmaninoff |
| ・ 阿诺尔德·勋伯格 | Arnold Schoenberg |
| ・ 莫里斯·拉威尔 | Maurice Ravel |
| ・ 伊戈尔·费奥多罗维奇·斯特拉文斯基 | Igor Feodorovich Stravinsky |
| ・ 谢尔盖·谢尔盖耶维奇·普罗科菲耶夫 | Sergey Sergeyevich Prokofiev |
| ・ 德米特里·德米特里耶维奇·肖斯塔科维奇 | Dmitri Dmitriyevich Shostakovich |

漢字だけ見ると、いったい何の事か、全く分かりませんね（笑）
カタカナがない中国では、全て漢字で表記する必要があるので、大変ですよ。

それでは、ごきげんよう！！
100周年で会いましょう（ウソ）



左松井さん Vn と矢野さん CB



鎌響のライドショー 鈴木達廣さん Cell 制作。 津金さん Trp とともに鈴木さんはプログラム制作にも活躍され復活の歌詞も英語版から新たに鎌響版として訳出されました。

懇親会での歴代役員たち



島中さん Vn Vla 元コンサートマスター マネージャー



吉田さん F1 元マネージャー 鎌響 40 周年記念事業実行委員長



芳賀さん Vn 元マネージャー



山本団長 Ob と 鈴木渉子さん Vn 現役員



鈴木美緒さん C1 現役員



横島先生 Cond、その右で鈴木達廣さん Cell 制作の鎌響ショーも進行中



山本団長からの鎌響ビール 鎌響100年にはプレミアムがつくことでしょう



Fig グループ 左から矢吹さん、松木さん、三浦さん



40周年記念のとき 左から田中智康さん (V1a)、山崎和之さん Hrn、宮崎さんと芥川さん (いずれも Hrn で役員) (KSO アーカイブ)